

平成26年度事業計画書

〔平成26年4月1日より平成27年3月31日まで〕

《総論》

1. 26年度の展望

平成25年度は、これまで実施してきた積極的な誘致・営業活動の成果、北九州市制50周年記念イベント開催などもあって、収入の面では、展示場・会議場ともに当初予算の目標を達成する見込みである。また、収支全体で見ても、徹底したコスト削減などの効果も相まって、最終的に黒字を確保する見込みである。

ただし、当協会を取り巻く中長期的な経営環境は厳しい状況にある。数年後には、周辺都市に、展示場やコンベンション施設の新・増設が予定されており、誘致競争が、よりいっそう激化するものと思われる。

したがって、引き続き、誘致・営業活動等を強化し、収入増や施設稼働率の向上を図るとともに、経営の効率化を一層進め、これまで以上に自主自立の経営を確立していかなければならない。

【協会の活動】

当協会は、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的にMICEを推進することにより、産業振興・国際化の推進・にぎわいづくりで北九州市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献していく。

そのため、次の3つの基本理念に基づき、事業を推進する。

①MICE開催の質を高め、産業振興・国際化を推進

- ・公益財団法人としての組織力・信用力の活用
 - ・MICE研究の深化による専門性とMICE開催誘致の競争力向上
 - ・環境変化に対応した自主事業のリニューアル
 - ・地域に必要な高品質なコンテンツの提供と情報発信力向上
- に取り組み、産業振興・国際化を推進し、地域の発展に貢献する

②MICE開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開

- ・北九州地域におけるMICE開催によるビジターズインダストリー（集客産業）の積極的な推進
 - ・自主事業のイベント分野への新規参入、イベント営業強化
 - ・有効な広報宣伝の実施
 - ・他団体・他施設との連携によるエリアマネジメント
- に取り組み、市内外からの集客力を向上し、地域への経済波及効果を増進する

③施設の付加価値を高め、利用者ニーズに合致した利用環境・サービスを提供

- ・小倉駅新幹線口コンベンション施設と西日本総合展示場3施設一体運用
- ・利用者視点からのきめ細かなサービスの提供と向上
- ・ユニバーサルデザイン等による施設・設備機能の改善
- ・ハード・ソフト両面でおもてなしの心の反映

に取り組み、多様な利用者ニーズに合致した施設づくりを推進し、目的達成の基盤を整える

【26年度の取組概要】

①協会自主事業の強化（4ページを参照）

北九州市新成長戦略や国・県の産業政策の動向を踏まえながら、産業貿易の振興やにぎわいの創出に貢献する協会自主事業を開発・推進する。

ア. 産業貿易振興型の自主事業の開発・推進

エコテクノ、インポートフェアなどの既存事業について、企画内容の充実、出展企業の増加を図るなど、事業の質を高める取組みを進める。

また、新たな産業やビジネスモデルの創造を支援していくため、例えば、ソーシャルビジネスや6次産業分野など、小規模であったり、採算性に乏しくてもテーマ性の高い展示会の開発を進める。

イ. にぎわい創出型の自主事業の開発・推進

夏休み・年末年始を中心に、市外・県外からの集客も見込める、ファミリー・イベントの開催を行うとともに、新球技場と連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

②コンベンション誘致の強化（11ページを参照）

国際・全国規模の大会・展示会の誘致や、スポーツコンベンション（大会）の展示場利用の拡大などに積極的に取り組み、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの更なる振興と賑わいづくりに貢献する。また、市のMICE開催助成金の戦略的な運用のほか、地域の文化・観光関連団体・施設との連携、他都市と連携した広域的な誘致戦略も推進する。

③積極的な営業活動の実施（16ページを参照）

施設稼働率の向上に向け、対象エリア・業界をより広げた積極的な営業を推進する。併せて、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努める。また、特に、閑散期における利用者増・収入増を目的に、親子を対象とした賑わいイベントなどの企画・開催に積極的に取り組む。

④小倉駅新幹線口地区魅力アップイベントの誘致、開催（18ページを参照）

同地区の企業・団体などと連携して、当該地区の魅力アップと賑わいづくりにつながるイベントや事業などを一体的に開催することを検討していく。

「あるあるCity」、「あさの汐風公園」、「（仮称）北九州市立スタジアム」など地域の資源を活用した事業を展開するため、イベントの誘致や共同開催に向けた取り組みを行う。

⑤施設利用者の利便性向上（20ページを参照）

質の高い貸館サービスの提供や快適な利用環境を確保するため、引き続き、施設利用者のニーズの把握と接客力の充実を図る。また、各施設・設備について、老朽施設の修繕や設備・備品の更新を推進し、施設利用者の利便性・満足度の向上に努める。

⑥西日本総合展示場などの施設の改修等（20ページを参照）

建築後37年を経過する本館について、劣化等に対応した維持補修を着実に進めるとともに、耐震診断にもとづく施設改修の準備に着手する。

【指定管理計画の目標実現に向けて】

平成26年度は新たな指定管理期間の初年度である。指定管理計画に掲げる目標（H26年度：来場者数（展示場・会議場）75万人、コンベンション誘致件数185件など）を着実に達成するため、計画的・組織的な取り組みを進める。

《各 論》

I 公 1 : 見本市・展示会事業（公益目的事業）

北九州市新成長戦略や国・県の産業政策の動向を踏まえながら、産業貿易の振興やにぎわいの創出に貢献する協会自主事業を開発・推進する。

1. 産業・貿易振興型の既存事業の充実

北九州市が積極的に取り組んでいる環境関連分野に重点を置き、「エコテクノ2014」や「再生可能エネルギー先端技術展2014」などの事業開催を通じて、西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に努める。

また、「インポートフェア&食メッセ」などの既存の各事業についても、企画内容の充実や出展企業の増加を図るなど、事業の質を高める取組みを積極的に進める。

なお、長年、継続開催してきた、通信分野の展示会「九州・国際テクノフェア」については、業界の営業手法が展示会からセミナーなどに移行し、時代のニーズに合わなくなってきたため発展的に解消する。

【H26 年度開催の事業（新規事業を含む）】

業 名	開催期日	入場目標	出展目標
西日本インポートフェア&食メッセ2014	5月2日 ～6日	50,000人	250社
西日本製造技術イノベーション2014	6月18日 ～20日	20,000人	60社・団体
第40回ふくおか産業技術振興展			40社・団体
第36回西日本陶磁器フェスタ	9月19日 ～23日	50,000人	200社
エコテクノ2014	10月8日 ～10日	32,000人	215社・団体
エコ・ベンチャー・メッセ2014			40社・団体
中小企業テクノフェアin九州2014			50社・機関
再生可能エネルギー先端技術展2014			110社・機関
P.P.C.2014 第16回西日本国際福祉機器展	11月7日 ～9日	30,000人	130社・団体
ヘルスケア展【新規】			
合 計	10事業	212,000人	1,095社・他

【既存事業の充実①…企画内容について（概要）】

各事業の目的や意義、社会・経済情勢などを勘案しながら、常に開催内容を見直しつつ、関心を高める努力を行っていく。

○「西日本インポートフェア&食メッセ」

新企画として「アフリカフェア」を開催。日頃、目にすることが少ないアフリカの産物や文化、芸術を提供する。また、昨年好評であった「イタリアフェア」もより充実して開催する。

○西日本陶磁器フェスタ

陶磁器製品の、その優れて高度な製品技術や育まれた伝統文化は、国内愛好家をはじめ海外からも注目を集める有効な観光資源である。

全国で最古参の陶磁器展示会として、陶磁器の魅力、文化、芸術を余すところなく展示するとともに、新企画の「匠の職人工芸品セミナー」、恒例の「ロールケーキフェスタ」の同時開催でより一層の賑わいを提供する。

○エコテクノと再生可能エネルギー先端技術展を2015年に一体化

2013年に同時開催していたエコテクノと再生可能エネルギー先端技術展については、出展物等に重複があり、一部より見づらいつとの意見があったため、主催者である福岡県、北九州市、九州経済産業局と当協会が協議をし、2015年に向けて両展示会を一体化し、一つの展示会として開催することで合意した。

2014年については、一体化に向け具体的な協議を進めていくと同時に、印刷物等の一体化など、先行して進めていける部分については、実施していく。

エコテクノと再生可能エネルギー先端技術展が一体化すれば、環境系では国内最大規模の地方展となる見込みである。

○「エコテクノ」出展内容の拡大・強化

「グリーンアジア国際戦略総合特区」や「北九州市環境未来都市」の政策の柱となっているレアメタル、レアアースの回収について重点的に取り組んでいく。これについては北九州市や福岡県リサイクル総合事業化センターと連携して実施していく予定である。

○「ヘルスケア展」を西日本国際福祉機器展と同時開催

健康づくり、介護予防、医療など、健康長寿に関する様々な製品・技術・サービスを展示・紹介する「ヘルスケア展」を西日本国際福祉機器展と同時開催する。

【既存事業の充実②…ビジネスマッチングの開催】

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とニーズ企業との橋渡しに努め、ビジネスマッチングの精度や確度を高める。

○中小企業テクノフェア in九州 2014 ビジネスマッチング事業

ビジネスマッチングに、大手企業の技術者OBで構成されるNPO法人テクノサポートを活用し、事前PRや発注-受注企業間の「橋渡し」から「摺合せ」まで細かくサポートしていく。

○西日本製造技術マッチングフェア（商談会）の開催

昨年に引き続き、マッチングフェアを開催。特に受注対象企業に、西日本製造技術マッチングフェア、ふくおか産業技術振興展、ロボット産業マッチングフェア北九州の出展社も対象とし、展示会の新たな魅力づくりとして開催。マッチングについては福岡県中小企業振興センターの協力の下、実施する。

【既存事業の充実③…国際ビジネスの推進】

国内市場が縮小するなか、海外との取引拡大の機会の提供に注力していく。

○アジアの関係団体等への出展誘致の推進

韓国を中心としたアジア各国に対して出展要項の配布を行い、当協会主催の展示会への出展やセミナー、シンポジウム等への参加に関する誘致活動を行うとともに、ミッション団の会場視察の誘致にも取り組む。

主催事業名	企業出展内容	関係国・機関等
西日本インポートフェア&食メッセ 2014	10社、10小間	韓国優良製品振興協会
	12社、12小間	スリランカ大使館
	1社、1小間	ベトナム領事館
	2社、2小間	インドネシア貿易振興センター
西日本製造技術イノベーション2014	5社・団体	韓国
エコテクノ 2014	5社・団体	韓国

○北九州市アジア低炭素化センターとの連携した国際環境セミナーの開催

北九州市アジア低炭素化センターと協力し、タイやマレーシア等の我が国の先進的な環境技術の導入を計画している新興国の政府関係者を招いて、現地の状況や必要な技術、コストのほか、法律、規制等求められている情報を地元企業に紹介するセミナーを開催する。

(貿易・産業協力振興財団助成事業)

【既存事業の充実④…関係団体との連携推進】

○産学官の連携

国、県、北九州市や大学・研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図る。

事業名	関係団体	大学・研究機関	関係行政機関
西日本製造技術イノベーション2014	<ul style="list-style-type: none"> ・(公財)福岡県中小企業振興センター ・北九州ロボットフォーラム ・(公財)北九州産業学術推進機構 ・九州航空宇宙開発推進協議会 ・(一社)九州経済連合会 ・福岡県航空機産業振興会議 ・九州ヘルスケア産業推進協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・九州工業大学 ・大分大学 ・九州共立大学 ・九州産業大学 ・西日本工業大学 ・福岡大学 ・福岡工業大学 ・北九州高専 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省 ・福岡県 ・北九州市
エコテクノ2014 エコ・ベンチャー・メッセ2014	<ul style="list-style-type: none"> ・九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP) ・北九州環境ビジネス推進会 ・(一社)九州ニュービジネス協議会 ・福岡県リサイクル総合研究事業化センター ・福岡県中小企業家同友会 ・(公財)北九州産業学術推進機構 ・日本貿易振興機構 ・九州スマートコミュニティ連絡会 ・宮崎県工業技術センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・九州工業大学 ・大分大学 ・北九州市立大学 ・福岡女子大学 ・九州共立大学 ・福岡大学 ・久留米大学 ・福岡工業大学 ・九州産業大学 ・長崎総合科学大学 ・崇城大学 ・滋賀県立大学 ・立命館大学 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省 ・経済産業省 ・九州経済産業局 ・福岡財務支局 ・福岡県 ・北九州市
再生可能エネルギー先端技術展2014	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡水素エネルギー戦略会議 ・(独)産業技術総合研究所水素材料先端科学技術センター ・九州ソーラーネットワーク ・九州バイオマス連絡会議 ・(一社)九州経済連合会 ・(一社)新エネルギー導入促進協議会 ・(一社)太陽光発電協会 ・九州地域エネルギー・温暖化対策推進会議 ・(一社)水素エネルギー協会 ・(公財)水素エネルギー製品研究試験センター ・水素供給・利用技術研究組合 ・燃料電池開発情報センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・九州大学 ・九州工業大学 ・北九州市立大学 ・有明高専 ・鹿児島大学 ・熊本大学 ・山口大学 ・西日本工業大学 ・福岡大学 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源エネルギー庁 ・九州経済産業局 ・福岡県 ・佐賀県 ・北九州市
西日本国際福祉機器展	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉住環境コーディネーター協会 ・日本リハビリテーション工学協会 ・(社)福岡県作業療法協会 ・(社)福岡県理学療法士会 ・NPO法人 ケアマネット21 ・福岡県保険医協会 ・九州ヘルスケア産業推進協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・九州工業大学 ・福岡県立大学 ・熊本学園大学 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省 ・厚生労働省 ・福岡県 ・北九州市

○その他の連携・交流（環境ビジネス展示会の連携開催）

地方における環境系展示会の主催者が連携することにより、国の施策の活用や環境負荷低減に向けた取り組みを強化する。

- ・環境省がすすめる低炭素社会実現にむけての企画の共同提案
- ・展示会における環境負荷低減（グリーン電力の導入等）

【既存事業の充実⑤…セミナーの開催ほか】

協会の自主事業の開催と並行して、次のようなセミナー・シンポジウム等を同時開催し、事業の相乗効果を高める。

○セミナー・シンポジウム

セミナー名	内容・講師(実施主体)	テーマ数	参加人数(人)	主催事業名
開催記念セミナー 航空技術セミナー、自動車技術セミナー他 関連セミナー	医歯工連携・医療機器産業参入をテーマとした記念セミナー他、産業用ロボット導入、航空機、自動車などの技術関連セミナー	6	500	西日本製造技術イノベーション
開会記念セミナー 環境国際セミナー (貿易・産業協力振興事業) 出展社セミナー 他	地球環境・新エネルギー関係セミナー各種	20	1,500	エコテクノ
燃料電池・水素エネルギー専門技術セミナー 再生可能エネルギーセミナー コジェネレーションセミナー 他	再生可能エネルギー、燃料電池、水素関係セミナー各種	11	1,000	再生可能エネルギー先端技術展
開催記念講演会 他	介護職・福祉用具専門相談員のための福祉用具活用セミナー&介護セミナー各種	40	1,500	西日本国際福祉機器展
合 計		76	4,500	

○併催事業

事業名	事業内容(実施主体)	出展社数	主催事業名
ロボット産業マッチングフェア北九州	北九州ロボットフォーラム	30社・団体	西日本製造技術イノベーション

2. インキュベーション型事業の開発・推進

新産業の創出や新たなビジネスモデルの創造を支援するため、小規模でもテーマ性の高い地域独自の展示会（例えば、ソーシャルビジネス、6次産業分野など）を開催するとともに、医歯工連携などをテーマとする様々なフェアインフェア型事業の実施を通して、新規展示会の開催ニーズなどを探索していく。

【新規事業の展望】

① 安心・安全の未来展

日刊工業新聞社との共同主催にて、最新の防災、減災、防犯及び危機管理に関する製品・技術・サービスを一堂に展示紹介するとともに、北九州市との共催で、一般市民の防災意識の啓発を図るコーナー、セミナーなども予定。2015年秋の開催にむけて、日刊工業新聞と協議を行う。

② 医歯工連携フェア&セミナー

「医歯工連携フェア」実施に向けて、2013年にプレイベントとして、FAIS（北九州産業学術推進機構）協力のもと、医歯工連携をテーマとした基調講演を「西日本製造技術イノベーション」にて開催した。2014年については、2013年に発足した「九州ヘルスケア産業推進協議会」と連携して対象エリアを拡大してセミナーを開催する。

また展示会形式では医療現場が参加しづらく、ニーズを反映しづらいため、同協議会と連携して今後商談を前提としたセミナーや商談会・展示コーナーなど、ニーズに対応した催事も検討している。

③ 製造技術マッチングフェア

平成22年度に北九州市受注拡大商談会が行政の事業としては終了したが、展示会の開催効果を高めるには今後も必要であるとの認識のもと「西日本製造技術イノベーション」、「ロボット産業マッチングフェア北九州」、「ふくおか産業技術振興展」の合同の商談会として、当協会の単独主催により実施した。前回は発注企業43社、受注企業122社、商談件数349件、成約金額は約1,200万円の成果を得た。今後も継続して実施していく予定である。

④ 航空・宇宙産業展 2015

国産航空機の生産開始に呼応し、地域の製造業の参入機会の創出を目的に、新規に航空・宇宙産業関連の展示会を調査する。また2014年については、プレイベントとして西日本製造技術イノベーションのなかで、九州航空宇宙開発推進協議会と連携して、九州発の小型電動航空機の開発をテーマにセミナーを実施する。

⑤ 次世代輸送機器・物流技術展

エコテクノの電気自動車コーナーを発展させ、環境負荷軽減を考慮した輸送機械・物流をテーマに、2013年はエコカー、ハイブリッド・トラックなどの展示とモーダルシフトをテーマとしたセミナーを実施した。2014年はさらに物流システム・技術などを追加して拡張していく予定である。

⑥ロボット総合産業フェア(仮称)

人型、コミュニケーション、介護ロボットといった比較的一般向けが多かったロボット産業マッチングフェア北九州に、生産現場で活躍する産業用ロボットや関連機器等の出展エリアを付加し、ロボットの総合産業展へと発展させるもの。

⑦「ヘルスケア展」を西日本国際福祉機器展と同時開催(再掲)

健康づくり、介護予防、医療など、健康長寿に関する様々な製品・技術・サービスを展示・紹介する「ヘルスケア展」を西日本国際福祉機器展と同時開催する。

3. にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・年末年始を中心に、市外・県外からの集客も見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントの開催を行う。また、(仮称)北九州市立スタジアムと連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

◆にぎわい創出型の主な自主事業(H25年度実績)

名 称	日 程	入場者数(人)
トミカ博 in 北九州 2013	7/26~28・8/2~4	58,105
こくら de フリマ	9/23	8,000
お正月だよ!ウルトラマン全員集合 in 北九州	12/27~H26/1/4	24,068
ニューイヤ-フェスタ in 北九州 2014	1/2~1/4	23,491
北九州 EXPO フリマ[九州の食 EXPO(2/10~2/11)と同時開催]	2/11	12,426

Ⅱ 公 2 : 会議・大会等（公益目的事業）

【概 要】

当協会では本市への多大な経済波及効果が見込める各種会議・大会等を誘致するため、地元はもとより全国のキーパーソンに対し、積極的かつ計画的に誘致活動を行っている。

また、北九州市の開催助成金制度の効果的な活用に合わせ、官民施設すべてを含めた地域資源の活用促進を図るとともに、新規エリアの開拓および大規模な国際会議や全国規模のスポーツ大会等の誘致を引き続き推進する。

さらに、主催・共催事業の異業種交流イベントや女性俳句大会および将棋フェスティバル等についても、昨年と同様に開催する。

1. 誘致・支援事業

平成25年度も国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に積極的に取り組んだ結果、開催件数・参加者ともに過去最高を記録した。しかしながら、全国でコンベンションの誘致競争が激化しており、各都市においてインセンティブ・ツアー支援制度の新設やユニークベニューのPR等に拍車がかかっており、油断できない状況にある。

このような状況下、当協会においても誘致担当一人一人が「おもてなしの心」を発揚させ、主催者のフォローアップに努めるとともに、北九州市独自の産業観光をはじめとするユニークベニュー施設の提案や助成金制度等のツールを有効に活用し、都市の魅力発信およびブランド力向上に努める。

また、開催地決定権限を持つキーパーソンを北九州市に招致することで理解を深めてもらい開催確度を高める等、機動的かつ戦略的に誘致活動を展開する。

【参考】◆平成26年度以降開催の主な会議・大会等

規模	名 称	開催時期	会 場	参加者 (外国国数、人数)
国際	IH-MSP(Information Hiding and Multimedia Signal Processing)	H26年 9月	北九州国際会議場	900人 (15カ国 800人)
	国際シミュレーション学会 2014	H26年 10月	北九州国際会議場	1,000人 (10カ国 150人)
	第27回日本動物細胞工学会 2014 年度国際大会(JAACT2014)	H26年 11月	北九州国際会議場	1,750人 (未定)
	SCIS-ISIS 2014	H26年 12月	北九州国際会議場	1,200人 (10カ国 900人)
	第26回日本心エコー図学会学術集会	H27年 3月	北九州国際会議場 北九州国際展示場	1,500人 (未定)
	LAMP2015 第6回レーザー先端材料 加工国際会議	H27年 5月	北九州国際会議場	1,360人 (20カ国 700人)
	2015 アジアボディビル選手権大会	H27年 7月	北九州芸術劇場	1,600人 (18カ国 900人)

	ISMB2016 (第15回世界磁気軸受国際シンポジウム)	H28年 7月	北九州国際会議場 門司港ホテル	1,000人 (20カ国550人)
	IRC2016 国際ゴム技術会議 IRC2016 ゴム・エラストマー技術展	H28年 10月	北九州国際会議場 北九州国際展示場	2,750人 (20カ国750人)
全国	日本家政学会第66回全国大会	H26年 5月	北九州国際会議場	1,800人
	第49回地盤工学会全国大会	H26年 7月	北九州国際会議場 北九州国際展示場	5,400人
	第47回全日本社会人体操選手権大会	H26年 9月	北九州市立総合体育館	2,130人
	平成26年度全国ソフトバレーレディース&メンズ フェスティバル	H26年 9月	北九州市立総合体育館	1,800人
	第74回日本消化器内視鏡技師学会	H27年 5月	北九州国際会議場 北九州国際展示場	2,500人
	第142回日本歯科保存学会 平成27年度春季大会	H27年 6月	北九州国際会議場 北九州国際展示場	1,500人
	平成27年度 全国港湾労働災害防止大会	H27年 6月	北九州芸術劇場	1,250人
西日本・九州	第51回九州外科学会	H26年 5月	北九州国際会議場	600人
	第5回西日本地区男女ペアグラウンド・ゴルフ大会	H26年 5月	グリーンパーク	2,750人
	第51回科学関連支部合同九州大会	H26年 6月	北九州国際会議場	1,000人
	吹奏楽九州大会2014	H26年 10月	北九州市立総合体育館	9,000人
	第9回九州臨床工学会	H26年 10月	北九州国際会議場	800人
	第9回九州放射線医療技術学術大会	H26年 11月	北九州国際会議場	1,000人

【平成26年度新規誘致に向けた主な取り組み】

(1) キーパーソン等への積極的な誘致営業

今まで培ってきた地元のキーパーソンとの信頼関係の維持に努めるとともに、高齢化社会をキーワードとした「健康・福祉」、環境モデル都市としての蓄積や経験を活かした「環境・ものづくり産業」という地域特性や強みを活かせる工学・環境・医学などの分野を中心に、国際会議や大型会議のほか、同業者組合系大会及びスポーツ大会等の誘致を推進する。

また、学会・大会等で北九州市を訪れるキーパーソンに対し、関係する類似大会等の再誘致を積極的に働きかけるとともに北九州市の魅力情報発信ツールの強化に努める。

【地域連携】

- 九州新幹線全線開通と目前に迫った東九州自動車道の全線開通により、人的・物的流通手段は活発となることが予想されることから、両線の頂点に位置し、九州の玄関口でもある本市の地域性をPRするとともに大分県や宮崎県・熊本県等の広域な観光ツアーを提案するなど、域内の観光客の回遊を促し、本市着地型の行程提案等を行う。
- 関門都市連携として、北九州市門司港・都心エリアと下関市湾岸エリアを関門圏コンベンションゾーンとして、会場・観光資源を共有することにより、新たな誘致案件の共同開拓と実施に取り組む。
- 全国3都市連携として、誘致競合しにくいエリアであり且つ同都市規模を有する山形コンベンションビューローと岡山観光コンベンション協会と共に全国規模のMICE開催動向や相互の誘致活動について有機的な意見交換を行い、成果に結び付けたい。

【学会・大会】

- ものづくりの都市・北九州市にふさわしい工業技術の基礎となる計測制御に関する地域企業・学究関係者で構成される工学系の各種学会のキーパーソンへの働きかけを積極的に行い、全国規模の関連学会の誘致を行う。
- 本市の施策であるアジア地域の低炭素化への貢献を推進するため、アジア建築都市低炭素学会等との環境関連の学会、機関との連携協力を推進し、関連する学会、大会を誘致する。
- 北九州市立大学が2016年創立70周年を迎えるあたり、70周年記念事業となる大型国際会議を誘致する。周年事業となる大型国際会議の開催により、会議参加者と大学研究者、学生との幅広い交流の場を提供する。
- 大学教授への学会誘致等の活動と共に、展示場の閑散期対策の一貫として、長期間の施設利用と大幅な利用料収入増加が見込める入学試験会場など、施設の多用性を高めるための利用促進を地元大学等関係機関へ働きかける。
- 誘致営業先の主力である産業医科大学や九州歯科大学のキーパーソン営業については、主要な教授とコネクションを持つ事業者等と連携を密にして同行セールスするとともに、相互に情報交換・連携を図りキーパーソンの囲い込みを目指す。
- 今年100周年を迎える九州歯科大学の記念式典の支援を行うにあたり、これまで培ってきた関係キーパーソン・ネットワークを活用し、式典参加者の中から新たなキーパーソン獲得を行い、人脈および営業エリアの拡大を図る。
- 主要アジアマーケットの掘り起しを図る。
多くの国際会議を抱える台湾・香港・シンガポールの主要国立大学訪問を強化して人脈を広げるとともに、紹介営業に力点を置く。また、マレーシアは分校をもつ九工大関係を足掛かりとして現地営業を開始する。

【スポーツ】

- 西日本総合展示場新館の新たな利用価値を生み出しつつ、稼働率や来場者数の増加を目的に、展示場新館をアマチュアスポーツ大会等の会場として利用提案を図り、大会の開催を誘致していく。
- 2016年度(平成28年度)に予定されている浅野地区の(仮称)北九州市立スタジアム完成や、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を受け、国内でのスポーツへの関心の高まりを最大限に活用し、従来の大会のほか、選手・指導者育成会、研修会等のスポーツ関連会議や講演会、スポーツイベントも積極的に誘致活動を行う。

【誘致支援】

- 国際会議誘致の効率的な営業体制強化を目的に、海外主催者および国内遠隔地向け営業用ホームページの作成と活用を実施する。海外および国内キーパーソン向けに、北九州市の魅力を一面的にPRできるインパクトのあるホームページの作成と活用を目指す。
- 学術会議や同業者組合大会等各事業の開催を誘致するため、会議等の開催を検討している学会や団体のキーパーソンに対し、他都市との差別化を図り、本市内での会議等の開催成約を勝ち得るため、招聘して北九州市までの視察経費の一部を支援する。
- 誘致案件で来北した参加者へのおもてなしとして、空港出迎え・小倉駅歓迎看板設置、郷土芸能紹介、会場間シャトルバス支援等、おもてなし都市北九州にふさわしい、きめ細やかな支援サービスを拡充し、参加者へのホスピタリティ向上を図る。

(2) 国際ミーティング・エキスポ(IME2014)への出展

我が国で唯一のコンベンション関係者が一堂に集うトレード・ショー「国際ミーティング・エキスポ(IME2014)」に出展し、コンベンションシティ北九州市のPRを行い、会議・大会を主催する学会や大会等のキーパーソンへの誘致活動を展開する。

さらに北九州商工会議所産業観光推進室との出展連携を継続し、産業観光をユニークベニューの一つとして、来場者に積極的に都市の魅力を発信していく。

(3) MICE開催助成金の活用による誘致活動

平成26年度は、従来のコンベンション開催助成金をさらに進化させ、MICE開催助成金として再編された。これまで学会、大会等への支援が大多数であったが、今後は、需要が見込まれるインセンティブ・ツアーの支援についても、助成金を利用しやすい制度に改定がなされた。この制度を効果的に活用することにより経済効果の高いコンベンションの誘致を積極的に展開する。

【参考】◆平成25年度 助成金交付実績(内訳)(平成26年1月現在)

規模別	件数(件)	助成金額(千円)	参加人数(人)
国際	26	32,400	17,905
全国	38	19,350	42,137
西日本・九州	30	12,950	28,991
計	94	64,700	89,033

(4) コンベンションボランティア制度を活用した開催支援

主催者に対し、国際会議等での語学対応をはじめ学会・大会での会場受付などに、登録ボランティアを派遣して、支援サービスの拡充に努めるとともに参加者とボランティアの交流を図り北九州市の魅力を引き続き発信していく。

また、北九州市青少年ボランティアに活躍の場を提供できるよう、協会登録ボランティアとの連携を目指す。

◆コンベンションボランティア派遣実績

区 分	登録者数(人)	派遣件数(件)	派遣人数(人)
25年度	65	12	86
24年度	67	10	89
23年度	57	10	128

2. 主催・共催事業

国際会議場を活用するなどして、幅広い年齢層を対象に各種イベントを実施する。

なお、開催にあたっては、事業内容の拡充やPR活動の強化といった工夫を凝らし、来場者増を図る。

◆ イベント・大会等の企画、開催（主催・共催）

事業名	開催期日	目標入場者数
夏休みこどもシアター	H26年7月	500人
冬休みこどもシアター	H26年12月	500人
第14回全国女性俳句大会 in 北九州	H27年3月	1600人
第23回北九州将棋フェスティバル	H27年3月	500人

Ⅲ 公 3 ・ 収 1 ・ 収 2 : 貸館利用者の誘致・営業強化

【概要】

経済状況の変動に合わせて、継続的な営業成果を上げていくためには、単なる展示会場等の貸館営業という発想を越え、イベントやコンサートなど多用途利用の集客支援を行うとともに、当協会による自主企画事業を含めた閑散期の利用促進対策も推進し、稼働率・利用者数等の営業指標の向上を図る。

今後も、既存の顧客に対しては利用の定着化を図るとともに、潜在的な顧客の掘り起しを進めるため、展示会開催ノウハウの提供など企画提案型の営業を強化する。

また、昨年実施した「MONO CAFE 事業」の様に、北九州市等の行政機関の政策を反映した事業企画・誘致を進めるほか、全国のコンベンション施設や産業振興団体等と利用情報の共有を図り、共同誘致なども働きかけたい。

1. 営業体制の強化

当協会施設の稼働率向上を目指して、既存顧客の施設利用定着化を図るとともに、展示場の多用途利用を促進するため、対象の業態やエリアを広げ、「コンサート」や「受験会場」等新たな利用者の開拓に取り組む。

また、利用者の施設利用の目的にかなった、成果等を向上させるための各種の支援も強化する。さらに、あるある City など近隣の集客施設との連携も深めたい。

(1) 既存利用者の定着化および復活

過去の展示場の顧客データを分析するとともに、利用頻度が減少等している顧客に対し、定期訪問による施設利用の働きかけや集客支援を提案する。こうした実績を基に、市内需要のある「自動車関連」や「食品関連」等の新たな顧客の開拓に努める。

(2) 新規利用者の開拓

従来の見本市・展示会の誘致に加え、展示場・会議場の新たな利用形態を模索し、新規分野（企業プライベートショーやゲーム・握手会等のイベントなど）を中心に福岡都市圏や首都圏などでの積極的な営業活動を展開する。

さらに、イベント主催者となるテレビ局事業部との連携体制を構築し、共催に向けた情報交換を行うとともに、「食関連イベント」の開催など閑散期を中心とした利用提案や共同主催等を実施する。

(3) 主催者への各種支援等

当協会施設の利用効果を高める取り組みとして、集客および広報の支援などを実施する。具体的には、自主事業として「北九州 EXPO フリマ」等を開催し、市民を中心とした集客を図り、同じような客層をターゲットとした展示会等の同時開催（日程調整）や共同広告を調整するなど、相乗効果を高めるための提案を行う。

また、市外主催者の増加する中で、市内コンベンション関連業者の利用提案も図り、市内経済対策にも貢献する。

(4) 閑散期対策（一部再掲）

展示会場の利用方法についても、展示会から個別のビジネスマッチングやまちづくり・にぎわいづくりのイベントに利用が広がりつつある。

そこで、閑散期については、こうした社会のニーズの変化を捉え、当協会が開

催すイベントとして、夏期の「プラレール博 in 北九州」や年末・年始イベントの「お正月だよ！ウルトラマン全員集合」等共催事業を軸に、新たな閑散期対策を実施検討する。

◆営業 閑散期対策・自主企画・運営支援事業（H25 年度実績）

名 称	日 程	市との関係 ☆=50周年記念事業	入場者数 (人)
トミカ博 in 北九州 2013	7/26～28・8/2～4	後援☆	58,105
Kitakyushu MONO CAFE	9/22～23	後援／協賛 ヒューマンメディア財団☆	5,000
こくら de フリマ	9/23	共催	8,000
アイススケートフェスティバル	11/23	後援	700
ウルトラクリスマスモルレル	12/20	後援☆	196
お正月だよ！ウルトラマン全員集合 in 北九州	12/27～H26/1/4	後援☆	24,068
ニューイヤ-フェスタ in 北九州 2014	1/2～1/4	後援☆	23,491
九州の食 EXPO	2/10～2/11	共催	12,426
北九州 EXPO フリマ	2/11	—	同上
北九州ソーシャルビジネスメッセ	2/11	協力	同上
合 計			131,986

IV 公1・公2・公3・収1：広報・宣伝、地域連携

【概要】

様々な広報媒体を組み合わせるメディアミックスの手法を活用し、協会施設およびイベントのPRを行い、利用者および来場者の掘り起こしに取り組む。

また、JR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州との連携による、効果的な主催事業のPRを行う。

さらに、新幹線口エリアの事業者と共同で、地域のにぎわいづくりに取り組む。

1. 広報・宣伝

(1) インターネットを活用した広報の実施（一部再掲）

協会ホームページを活用し、施設の紹介をはじめ、協会の主催事業及び展示場、会議場の催事案内などの最新情報を提供する。

また、併せて外国向けページ等の充実も図る。

(2) 協会情報誌「催事案内」の発行

各区役所や各区の出張所および市民センターやJR小倉駅、市内ホテルなどへ配布・掲出し、当協会施設で開催予定の主催事業や展示会・イベント・学術会議・大会などのコンベンション情報を広く紹介する。

(3) コンベンションカレンダーの作成と提供

北九州市内で開催される様々なMICE情報を収集・整理し、MICEカレンダーとして定期的に賛助会員等への情報提供を行う。

(4) コンベンションゾーンのPR

北九州市の玄関口である北九州空港において、電照広告看板による施設のPRを実施する。また、JR小倉駅のマルチビジョンによるPRも行う。

さらに、「月間催し物案内」の広告出稿、JR小倉駅新幹線口や北九州モノレール各駅へのポスター掲示、加えて、公共性の高いイベントについては、市政だよりへ記事を掲載するなど、施設利用者への広報支援を積極的に実施する。

(5) MICE開催助成金制度のPR

北九州市のコンベンション開催助成金からMICE開催助成金制度に制度改定がなされたことで、特に需要が見込まれるインセンティブ・ツアーの支援について、IME2014でのチラシ配布や、E&C、見本市展示会通信、MICE Japan等の広告媒体を活用し、全国にPRする。

2. 地域連携

(1) 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベントの誘致、開催の取り組み

小倉駅新幹線口地区の魅力アップとにぎわいづくりに資するため、各種事業への協賛、支援、協力を効果的に行うとともに、「あるある City」などと連携したイベントの開催を検討する。

具体的には、あるある City やあさの汐風公園、また建設が計画されている新球技場など地域の資源を活用した事業を展開するため、情報交換・意見交換を活発に行い、連携しながらイベントの誘致や共同開催に向けた取り組みを行う。

(2) 小倉駅新幹線口地区振興連絡会における取り組み

小倉駅新幹線口に立地する企業・団体が一体となって、当地区の魅力アップや回遊性、利便性の向上、持続的なにぎわいの創出などを目的に組織する小倉駅新幹線口地区振興連絡会の活動に積極的に取り組む。

具体的には、「新幹線口エリアぐるりマップ」やホームページを活用して来街者向けの情報発信を行うとともに、会員同士の交流や情報交換を活発に行い地域の連携強化を推進するため、意見交換会や交流会、地域活動（清掃活動）などを実施する。

(3) JR連携事業

ア JR九州との連携

JR小倉駅をはじめとした北九州市近郊の主要駅に、協会主催事業をはじめ、主要イベント等のポスター・チラシを掲出し、広域からの集客向上を図るためのネットワーク構築に取り組む。

イ イメージアップの取り組み

各種時刻表へ協会および展示場の広告を掲載する。

協会の主催事業やイベントとJR九州ポケット時刻表および小倉駅の時刻表をセットにしたものを共同で作成し、小倉駅をはじめJR九州管内の各駅で配布する。

(4) 広域ネットワークによる施設間連携事業

(公財)名古屋産業振興公社や(一財)みやぎ産業交流センターが管理運営する施設との相互利用割引制度の新設をベースに、各々が実施する主催展示会の協力事業を模索するなど広域ネットワークの構築による施設利用の促進と主催展示会の拡充を図る。

【概要】

西日本総合展示場本館・新館及び北九州国際会議場について、施設管理者として、公正かつ効率的な管理運営を行う。また、お客様サービスの向上、安全・安心な利用の観点から施設・設備の改善に努める。

1. お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

ア 「地下駐車場及び2F ガレリアから目的会場まで、経路がわかりにくい」という利用者の声に対応するため、「フロアガイド」（新館、本館、会議場の位置関係や各会場までの導線を示した地図）を充実するとともに、アクセス・サービスの向上を図るため、新たにデジタルサイネージ（電子案内板）の導入などを検討する。

イ 利用料金に関する利用者とのトラブルを防止するため、料金の算定事例や平均的な利用パッケージメニューなどをホームページに新規に掲載する。また、ホームページ上で会場使用料の概算金額をシミュレーションできる仕組みづくりなど、ホームページを積極的に活用したサービス提供を検討する。

ウ 展示会・学会主催者などのニーズを踏まえ、チラシ・冊子作製を支援する「有料プリントサービス」や「有料で消耗品等を提供するサービス」など、新たなサービスメニューを検討する。

(2) エコアクション21 認証更新

環境保全活動への意識を高め、「エコアクション21」に基づく、環境に配慮した事業運営を進める。

(3) 職員の資質・能力の向上

個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守に関する基本研修をはじめ外国人への対応やプレゼンテーション手法など専門研修を強化することにより、施設運営を取り巻く環境変化に適応した信頼性の高い人材育成と能力開発を図る。

2. 利用料金等の見直しの検討

施設の利用用途の拡大、稼働率の向上を図るため、会場や備品利用料の見直しなどについて、北九州市と引き続き協議していく。

3. 管理業務の効率化（管理経費の縮減）

電力料金の低減を図るため、引き続き、デマンドの監視、力率の改善、空調動力の時差運転を行うなど、消費電力削減に向けた取り組みを行う。

4. 施設の改修等

(1) 西日本総合展示場本館の改修等

平成 25 年度実施した耐震診断の調査結果に基づき、改修の必要性のある部分について、会場の稼働状況を勘案しながら、所定の耐震改修工事の準備に着手する。

また、「空調の効きが悪い」という利用者の声に対応するため、「空調ガスヒートポンプ設備」の見直しとともに（仮称）北九州市立スタジアム建設に伴う、長期間の道路工事に対応した本館駐車場運用対策を検討する。なお、「消防設備」、「放送設備」など、経年劣化による不具合が危惧される設備類については、より入念な予防保守を実施する。

(2) 西日本総合展示場新館の改修等

ア 北九州市実施の改修

集中豪雨時における展示場施設内への浸水を解消するため、外構部分の改修工事を行うとともに、来場者の安全維持と景観維持のためのインターロッキング陥没箇所等の改修を行う。

また、新館天井面に 30ヶ所設置している照明・美術バトンのロープ、ケーブル、巻上げ機の段階的な改修を行う。

イ 北九州市に要望する改修等

展示場の電力供給を安定的に維持管理するため、経年使用により不具合が発生するおそれのある計器類の更新を北九州市へ要望する。

また、入場者カウンターシステムなど、利便設備の更新も引き続き北九州市に要望する。

ウ その他の改修等

経年劣化が露見する設備面の迅速な改修・改善に努めるとともに、安全・安心に利用できる施設を維持するため、煙感知器などの消防設備をはじめ、施設・設備の日常の保守点検について重点的に取り組む。

また、汚損されることの多い机、椅子などの備品類についてメンテナンスの充実を図る。

(3) 北九州国際会議場の改修等

ア 北九州市に要望する改修等

受電設備や照明電源設備など耐用年数の期限が迫ってきている基盤的設備について、早急な更新・改修等を要望する。

また、展示場と同様に、本体部品供給が終了している電話機・PHS・構内電話交換機（PBX）の更新を引き続き要望していく。

そのほか、イベントホールのガラス面への遮光幕の新設、エレベーターの耐震対策工事等についても併せて市に要望する。

イ その他改修等

建物の内外ともに壁面などの美観保全工事や冷温水配管のバルブ故障など水回りの老朽化に伴う補修工事を適宜実施する。

また、屋外喫煙所の屋根整備や、駐車場側搬入口付近の整備等、来場者サービスに関わる設備改善についても逐次検討する。